

第12号  
平成27年3月



山梨県立山梨高等学校 同窓会  
同窓会だより

## 動き始めた創立100周年事業

同窓会長 吉原五鈴子



日本に四季のあることのありがたさ、厳寒の冬から万物躍動の春を迎えております。同窓会だより第12号をお届け出来ますことを心から感謝致します。会員の皆様方の温かいご理解ご協力を頂き、平成26年度同窓会事業をつがなく終えることができました。2月末には新たに本年度卒業生全員を新入会員に迎え、同窓会員も28,000を数え、一段と若返った感が致します。益々充実した同窓会になりましょう。

平成26年度を振り返りますと、最大の喜びは7年ぶりの同窓会名簿発刊でした。沢山の会員にお求め頂き、さすが梨高同窓会と大いに力を頂きました。いよいよ目前に迫って参りました山梨高校創立100周年の節目を考えると、執行部一同将に身の引き締まる思いです。創立100周年記念事業実行委員会が発足し、組織も整い、事業内容として、校舎東に位置する同窓会館の改修を目標に、校内理事会等で協議を進めております。現在の施設をより使い易い形に改修することによって、同窓会のみならず、日常在校生の皆さんに大いに活用して貰うことを願っての計画です。年度末年度初めの諸行事を終えて、5月頃には第2回実行委員会が開催できそうです。会員の皆様の絶大なるご支援を心からお願い申し上げます。

さて、平成27年度同窓会総会・懇親会は、幹事役を昭和47年度と平成4年度卒生にお願いし、村田恵子実行委員長様はじめ前向きな実行委員様方に鋭意お取り組みを頂いております。恒例の総会開催日4月29日（昭和の日）には、在校生の諸活動の一端も披露して頂きます。お一人でも多くご参加下さり、会を盛り上げて頂けますよう再度お願いし、あいさつと致します。



## 若者の志に希望を見る

学校長 秋山宏子

今年は阪神大震災から20年、東日本大震災からも4年が経過しました。その震災を経験した子どもたちは、その経験を糧に、自分は何のために学ぶのかを深く考えている傾向が見られるといいます。厳しい状況にもかかわらず、被災3県の大学進学率は落ち込みが見られず、就職も進学もしないという生徒も減ったそうです。「自分も社会と復興に貢献したい」という意識の表れだと専門家は見ているようです。地域の危機を「わがこと」ととらえ、自分にできることを考える。そんな姿勢は、本校の生徒からも感じられます。

今、人口減少社会に向けての課題が大きく取り上げられています。住み慣れた地域がなくなってしまう危機も指摘されています。先日、3年の男子生徒が進路決定報告に校長室に訪れた際、将来はどんな仕事をしたいのか尋ねたところ「地域活性化のためのプロジェクトに関わりたいです」と目を輝かせながら答えてくれました。地域を大切に思う心に感銘を受けると共に、嬉しい気持ちで満たされました。自分が今いる場所から、この社会を考えようとする若者の姿を頼もしく思い、その志を心から応援したくなりました。

今年も全日・定時制で合計195名が無事に卒業を迎え、同窓会の仲間入りをさせていただきました。同窓会の皆様には、今後も社会を支える若者の巣立ちを見守り、卒業生・在校生への変わらぬご支援をお願いし、挨拶といたします。

## 同窓会研修旅行

元旦の朝日新聞の一面に朝日賞の方々が発表されていた。その中に大村智さんがいた。“エバーメクチン”という抗生物質を発見され、これを改良し動物薬をつくり、その薬は売り上げ世界一という。山梨県が誇る大村智北里大学特別栄誉教授。病院建設者。私は我がことのようにうれしく、家族にその喜びを伝えた。

私は大村智さんのことは10月23日の同窓会研修旅行までは全然知らなかった。研修旅行最後は韮崎市の韮崎大村美術館だった。坂を上った先にその美術館はあった。街を見下ろす近代的な明るいこじんまりした建物だった。大村さんの意をくみ、発表の場の少ない女性の作品を多く展示するというポリシーのある美術館だ。森田元子の作品展をやっていた。彼女の作品は若い頃は明るい女性像を中心だが、晩年に近づくと抽象的な作品になっていく。私は1949年制作「挽歌の紙ばさみ」を求めた。

私は大村智さんに興味を持った。山梨出身の事業家はいわゆる甲州商人として評判はあまり良くないが、この人は巨額を投じ美術館を建て、作品を購入し韮崎市に寄付したという。「すごい人ね」と口々に言い合った。近くにあるこの美術館を大勢の人に見て欲しい。

今回の旅行は“山梨再確認”ということで、平山郁夫シルクロード美術館、サントリー白州工場、そしてこの美術館。どこも山梨の良さを再発見するいい企画だった。

研修旅行は、会員一人ひとりが研修を深めると同時に、親しく交流し、同窓会がより身近になり、今後の活動のプラスになると思えた。



## 奨学金授与式

山梨高校奨学金授与式が昨年12月10日に行われました。本奨学制度は創立50周年記念事業の一つで、同窓生の寄付金を基金として発足しました。

奨学生は職員会議で学業、部活動、人物ともに優秀な生徒として推薦され、同窓会役員会で承認された各学年2名、定時制1名の7名です。

式は保護者、校長、関係の先生、同窓会役員が参列するなか厳粛に行われました。はじめに吉原同窓会長が「奨学生となつた先輩は社会で活躍されていると聞きます。保護者、先生方への感謝を忘れず、渾身の力を出して頑張ってください。」と励ました。

秋山校長から、「真摯に努力を重ねた結果です。選ばれたことを誇りとし、さらに励むように。」とのエールがありました。これを受け3年生の藤井将史君が代表して「梨高生としての自覚を持ち、努力を重ね、先輩達が築き上げてきた梨窓会に恥じぬよう精進していきます。」と堂々とした誓いが述べられました。

勉学に部活動に全力を尽すフレッシュな生徒達に接し、この事業の意義を確認すると共に、今後の継続を願い閉式としました。



## 同窓会入会式

柔らかい春の日差しが降り注ぐ2月27日、平成26年度卒業生の同窓会入会式が行われ、195名の新入会員が梨窓会に入会いたしました。吉原五鈴子同窓会長より「皆さんには、未来と希望に輝いています。山梨高校で学んだことに自信と誇りを持って各方面で、大きく活躍してください。また、2年後には創立100周年記念となりますが若い力を同窓会活動に発揮してください。」との歓迎の言葉が贈されました。記念品が贈呈され、各クラス2名の同窓会理事が委嘱されました。新入会員を代表して奥山達生さんより「伝統ある山梨高校同窓会に仲間入りし光榮です。山梨高校の卒業生としての責任感と向上心を持ち、それぞれの道に進み、同窓生として後輩を支え山梨高校の発展に貢献したい」とのお礼の言葉がありました。新入会員の今後の活躍をご多幸を祈念いたします。

## 卒業証書授与式

3月1日、平成26年度山梨県立山梨高等学校卒業証書授与式が厳かに挙行されました。胸にガーベラの花を飾った全日制187名定時制8名の卒業生は、凛々しく晴れやかな姿でした。

秋山校長先生から卒業証書及び44名へ皆勤賞が授与され、式辞では全ての面において後輩の模範となった卒業生の活躍が紹介され、今後も感謝の心を忘れず人間として何をなすべきか考える力を養い、他者と共に存できる人間に成長してほしいと結ばれました。同窓会会長からは、素晴らしい後輩を迎える喜びが語られ、今後の指針として「自らの判断力を持ち日本語を大切に」との真心こもる祝辞が贈られました。さらに、3年間の学びを実らせ、たんぽぽの綿毛のように飛び立っていく卒業生の未来に幸多かれどのはなむけの言葉が添えられました。別れの歌は惜別の思いが込められ、悲しくも、頬もしく胸に迫る卒業式でした。



## 平成23年度実行委員長 三枝 喜久子

同窓会の当番幹事から4年が過ぎた今でもあの時のことは蘇ってきます。なつかしい友との再会。女性として、それぞれの人生を歩んできた友は、頬もしく輝いておりました。これは在学中に学んだ“至誠無息”的精神を持って歩んで来た証ではないかと思いました。

準備も軌道に乗ってきた3月11日、突然の東日本大地震の発生に、同窓会開催も危ぶまれ大幅な変更をすることとなりました。被災地への義援金を送りたく思い「エコを考え、手作りの同窓会にしよう」を合言葉に、実行委員一人ひとりが誠意を持って頑張りました。

素晴らしい友と再会し、一つのことを成し遂げたことで還暦を迎えた新たな人生のスタートに大きなパワーを頂きました。



## 平成25年度実行委員長 須藤 千鶴

毎年の同窓会総会の折には、山梨高校の生徒の皆様には休日にもかかわらず校庭清掃・体育館設定・梨窓ホールの会場作成と大変お世話になりました。総会当日は茶道部の皆様から呈茶を頂き、音楽部の生徒さんからは美しいハーモニーを、また、応援団の皆様のエールは力強く校舎に響き、当日の同窓生一同感激致しました。

緑なす学校は美しく、生徒さんの笑顔は爽やかで、一人ひとりが若い皆様と握手して「ありがとう」と申し上げたい思ひがいっぱいでした。

これからも、伝統を礎に新しい文化を築くため、色々な機会に様々な人と出会い、皆様が一步一步ご自分の道を歩まれることを同窓生のひとりとして期待しております。

## 同窓会総会 実行委員長・副委員長を 体験して得たものは

山梨高校創立100周年も3年後に迫ってまいりました。毎年、同窓会・懇親会開催にあたっては、実行委員様方には多大なご尽力を頂いております。  
そこで、今回は、実行委員長・副委員長さんとしてご苦労頂いた方々に、  
当時を振り返り「同窓会総会実行委員長・副委員長を体験して  
得たものは」をテーマにコメントを頂きました。  
ぜひご一読の上、今後とも会員の皆様のご協力をお願い致します。



記念行事

盛大に行われた懇親会

## 学校だより・学校ニュース



### 関東選抜大会に出場して

2年 北井 淳 真

私達ハンドボール部男子は、部員が12人とそう多くはありませんが、関東選抜大会出場を目標として練習に取り組んできました。毎日の厳しい練習の中で、逃げ出したい時もありましたが、皆で支え合って乗り越えてきました。そして今年、創部5年目で県代表として初の関東選抜大会へ出場することができました。

大会前には、顧問の関口先生が私達のために体育館を借りて下さり、また塩山選抜ハンドボール部も練習に参加してもらえたので、良い環境の中で、普段ではできない実践的な練習もできました。そのおかげで一人ひとりが自信を持って試合に臨めました。

やはり関東の壁は厚く、実力の差を痛感させられました。悔いの残る結果でしたが、他校の試合を観戦する中で多くの課題が見つかり、これらの新たな目標ができました。

次の目標は、県内で一位になることです。自分に厳しく互いに切磋琢磨しあって、試合に臨んでいきたいと思います。

また、今まで恵まれた環境でハンドボールを続けてこられたのも、両親やご指導をいただいているコーチ、先生方のおかげです。目標を達成し、お世話になっている方々に恩返しができるように頑張っていきたいと思います。

### 私を育てくれた2つの部活動

書道部と写真部に所属したこの3年間で、私自身、大きく成長したと思います。

書道部では決められた時間内に畳数畳分の大きな用紙に作品を仕上げる「書道パフォーマンス」に取り組んできました。部長を任されたときは、経験の乏しさから不安でいっぱいでした。書道は各個人が自由に表現するものです。皆個性が強く、大会に対する温度差から部員同士がぶつかり、思うように練習が進まない日々もありました。逃げ出したいと思う時もありましたが、それでも諦めず続けてきました。知識が足りない部分は、全国のパフォーマンスを見て研究し、部員個々のペースを尊重しながら練習を重ねた結果、昨年夏の大会では2連覇を達成できました。

一方写真部は、技術的な面で成長できたと思います。初めはただ撮ることだけが目的でしたが、部員同士で写真を見せ合ったり、審査会に参加して感性豊かな作品を見たりすることで大きな刺激を受けました。それが自然と意識や技術を向上させ、関東大会での二度の入賞につながったように思います。

後輩たちに伝えられたこともそう多くはないのですが、両部ともに自分なりの目標を持ち、さらなる高みを目指して頑張ってほしいと思います。

3年 飯塚 晴菜

ぜひ、お出掛け下さい。

おしゃらせ

### 平成27年度山梨高校同窓会・懇親会

日 時：平成27年4月29日(祝) 午前10:30～

会 場：山梨県立山梨高等学校体育館  
及び 梨窓文化創造館

当番幹事：昭和47年度・平成4年度卒業生

会 員 券：3,000円

同窓会長：吉原五鈴子

実行委員長：村田恵子



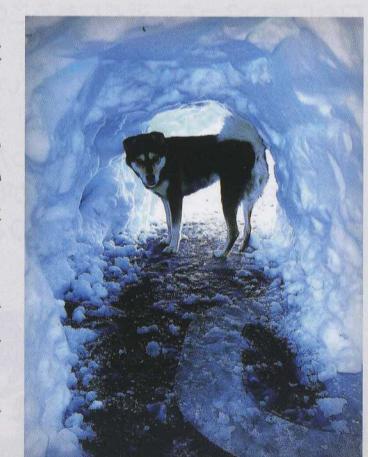
同窓生の方でご活躍している方がおりましたら、事務局までお知らせ下さい。  
ご紹介させていただきたいと思います。

山梨県立山梨高等学校 同窓会事務局

〒405-0018 山梨県山梨市上神内川194

TEL: 0553-22-1621 FAX: 0553-22-1623

URL: <http://www.yamanashi.kai.ed.jp>



『秘密の抜け道』関東大会優秀賞